

観光創造専攻

平成30年度
後期

日本語論述

10:00~12:00

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて2枚である。
- 3 解答用紙(25字×40行=1,000字)は、2枚ある。
- 4 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 7 下書き用紙は別途配付されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 8 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題について、1,600～2,000字の日本語（横書き）で解答しなさい。なお、適当な位置で改行して段落に分けること。
また、字数は改行による空白を含めて計算する。

近年、観光振興を期待して、地域資源の世界遺産登録やジオパーク認定を目指す動きが世界的に活発化している。また日本では、日本遺産や北海道遺産といった新たな制度も作られている。

このような動きは、対象の保護に加え、ブランド化によって観光対象の訴求力を高めることを意図したものと理解できるが、同時に、登録・認定・選定の過程における対象の取捨選択、登録・認定・選定されなかった物に対するまなごしの変化など多様な影響を生み出す。

こうした状況を踏まえた上で、遺産の登録・認定・選定を通じた観光振興の長所と短所の双方について、具体例を挙げながら論じなさい。なお、遺産の登録・認定・選定がもたらす結果だけでなく、それを目指す過程において生じる影響についても論じなさい。